

令和7年1月21日

太田市議会議長 高田 靖 様

太田クラブ 代表 白石 さと子

会派行政視察報告書

1 期 日 令和6年7月1日（月）から3日（水）までの3日間

2 視察地（視察事項）

7月1日（月）

北海道 札幌市議会 「札幌市立星友館中学校（公立夜間中学校）について」

7月2日（火）

北海道 ニセコ町議会 「ニセコ町のインバウンド対応について」

7月3日（水）

北海道 函館市議会 「函館市地域交流まちづくりセンターについて」

3 参加者 5名

白石 さと子 町田 正行 山田隆史

渡辺 謙一郎 木村 浩明

4 視察概要 別紙のとおり

令和 6 年 7 月 1 日（月）

北海道 札幌市議会 「札幌市立星友館中学校（公立夜間中学校）について」

目的 夜間中学には、義務教育を終了しないまま学齢期を経過した方や、不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方、外国籍の方などの義務教育を受ける機会を実施的に保障するための様々な役割が期待されています。

本市にも、教育の機会を求める方、また外国籍の方も多く在住しており、夜間中学の設置を求める潜在的なニーズが存在していると思われます。札幌市の星友館中学校は、全国に先駆けて夜間中学校を開設、運営されており直接現場を視察する事で理解を深める事を目的とする。

概要及び所感

平成 28 年 12 月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が成立し、令和 3 年には今後 5 年間で全ての都道府県に夜間中学が少なくとも 1 つ設置される事を目指すと当時の総理大臣が述べています。

星友館中学校は、通常の（夜間でない）資生館小学校と併設されています。時間やフロアを変えることで同じ建物内で共存しています。まず、どのような人が通っているのか。それが関心事でしたが、札幌の中心部という好立地であるためか、市外の近隣の自治体からも多く通っている様子でした。年齢層は幅広く 10 代から 80 代までまんべんなく在籍しています。こんな幅広い人たちが一緒に学んでいると言うところからして通常の中学校とまるで違います。通う目的は、中学校の卒業資格を取るのだと思っていましたが、全く異なっていました。お年寄りの方は、幼少時には、生きて行く事が精一杯、あるいは親の理解が無いため、教育を受けられなかった。と言う理由が多い様です。ほとんどの生徒が、単純に勉強がしたいという理由で通っていることには驚かされました。また、外国人は日本語も同時に学びたいという人もいました。

学習内容は、昼間の中学校と同じ教科書を使い、教員免許を持った先生が教えます。卒業すると正式な中学校の卒業資格がもらえます。

外国人には、必要に応じて日本語の支援も行っています。授業は、平日の夜間（午後 5 時 30 分から 9 時 00 分）に行います。週に 5 日一日 4 時間行います。

授業料はかかりません。内容を見ると本格的なスケジュールの様です。

全体を通した感想ですが、単純に学びたいという目的で、年齢や立場の違う人が 100 名を超えて学んでいる事に驚きました。また、これほど多様な背景を持つ生徒それぞれが、いきいきと通っている様子に夜間中学校の意義を感じました。令和 2 年度の国勢調査に

よると、小学校も中学校も在学したことが無い人が、全国に約9万人、最終学歴が小学校の人が、約80万人いることがわかりました。この他、外国人など、夜間中学校に対するニーズは必ずあると思います。今後も状況を見極め、そのような人が通える夜間中学校が地域に必要となるかもしれません。夜間中学校の卒業生からは、夜間中学で学んで良かったという声が多数寄せられています。今後も夜間中学校に対する理解を深められる様、注視して行きたい。



令和6年7月2日（火）

北海道 ニセコ町議会 「ニセコ町のインバウンド対応について」

目的 ニセコ町は、人口5,487人中、外国人937人（約17パーセント）と、本市と同様に外国人の多い自治体です。工場等の労働目的の本市と違い、ニセコ町は、多数の外国人が観光目的で訪れてくる（インバウンドの）為、主にそれに対応する外国人材が必要です。この外国人にどのように対応しているのか、その課題と工夫を、学ぶことを主目的とする。

概要及び所感

北海道中西部で積丹半島の付け根に位置するニセコ町は人口が5,500人弱という小さな自治体です。周辺の山麓には、有名なスキー場があり、パウダースノーと言われ

る湿気が少なくさらさらとした粉状の雪質は、特に外国人に人気があり、近年は特にオーバーツーリズムと言われるほど多数の外国人が訪れます。コロナ禍を除き、毎年 20 万人を超える外国人観光客に対して多くのリゾートホテルが立ち並んでいます。定住する外国人労働者も多くいます。その定住する外国人のため、町ではインターナショナルスクールを誘致したり、国際交流員（CIR）というサポート要員を採用しています。現在 5 名（マレーシア、ニュージーランド、中国、カナダ）が町役場商工観光課に勤務しています。

国際交流員のサポート範囲は、外国人が町で生活する上での全てと言って良いほど多岐に渡り、各種イベントやラジオ番組の企画、出演や日本語教育や逆に英会話や中国語教育も行っています。本市と比べ、より主体的な活動が目につき、外国人が他分野で活躍している様です。観光的には冬に集中する観光客を何とか他の季節にも広げる様、川くだり（ラフティング）やカヌー、気球などの発信に重点を置いている様でした。他の外国人集住都市の外国人と比べ、ニセコ町では、外国人が住民に溶け込んでコミュニケーションを取っている様です。町在住の外国人が何を一番望んでいますか聞いたところ、日本語をもっと勉強したいが勉強する場所が少ないと地域になじむ前向きな姿勢が印象に残りました。

ニセコ町の国際交流員は、JET プログラムという国の制度による外国人青年の職種であります。この国際交流員を中心にニセコの地域の住民が国籍を問わず町の取り組みや行事に参加し、国際交流イベントやパーティーを開催しています。また、インターナショナルスクールが、町内の住民を巻き込んで各種イベントを開催しています。国際交流の役に立ちたいと外国人自体が活躍していることは、素晴らしい事です。当たり前の様ですが新しい視点に出会った様な気がします。





令和 6 年 7 月 3 日（水）

北海道 函館市議会 「函館市地域交流まちづくりセンターについて」

目的

地域の魅力の創造、発信は実際に行ってみれば簡単なことではありません。
多くの方がおとずれる函館市地域交流まちづくりセンターを視察する事により、その
現状や役割、課題等を学び、本市の発展に役立てるため。

概要及び所感

函館市地域交流まちづくりセンターの建物は、大正 12 年設立の丸井今井呉服店から続く洋風で豪華な歴史建造物を昭和 45 年に市が買い取り市役所分庁舎として使用開始されたものです。 まず第 1 に、この歴史ある建造物を保存する事が目的です。 外壁を始め趣のあるエレベーターもそのまま使用する事が出来ます。

その活用については、建物の歴史的価値を十分に生かした施設にする事、市内西部地区の振興と新たなまちの魅力の創造や情報の発信する施設とする事。市民活動やサークル活動などの多様な交流活動を支援し人と人とのふれあいを大事にする施設とする事などがあげられます。

1F には、観光パンフレット等が置かれた情報発信コーナー、市民が自由なイベントや手作りの品物が販売されるコーナーの他に、函館市移住サポートセンターが併設され、函館市内への移住の相談や情報発信、移住者相互及び市民との交流促進を行っています。移住者交流会は、多いときには年に 30 回開かれています。 また、ふるさとへ U ターンする人へも手厚いサポートを行っています。

2Fには、フリースペースや会議室が設置され市民によるイベントが多数開催されています。3Fには研修室の他、各種団体に貸し出されているスペースがあり、机やプリンターなど、事務所として活用されていました。

市民がサークル活動等の市民活動や各種イベントをするには便利な作りになっています。立地は大変良く、函館特有の路面電車も停車するなど多くの方が利用しやすくなっています。情報発信の一つとして、多くの視察を受け入れているようです。

全体として、人々に受け入れられるよう、常に工夫を凝らしている様子がうかがえました。また、人口減少が大きい中、移住定住の専門部署を設けるなど移住定住者誘致を強く推進している所は、本市にないところです。函館市は、観光客が多く本市に比べ交流人口は多い様ですが、定住には苦勞をしている様です。

